

環境設定ガイドライン

物理的環境、人的支援の在り方

公益社団法人 子どもの発達科学研究所
所長・主席研究員 和久田 学



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

1

問題意識



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

2

2

問題意識

特別支援教育における問題

- アセスメント: 幼児期から就学までにアセスメントがうまく機能せず、傷つき体験を重ねてしまった
- 保護者支援: 保護者が我が子の状況を理解できない、もしくは保護者自身の抱えている問題(傷つき・貧困・障害)のために、保護者が機能しなかった
- 学校環境: 子どものニーズに合わせた学校環境(物的環境、人的環境)を提供できなかった
- 教師のスキル、指導力: 教師に熱意があり、努力をしていたとしても、方法が間違っていたら成果は上がらない
- 支援システム: 支援システムが十分に整っておらず、全て後手後手に回っている



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

3

3

問題意識

教育の要素

- 物理的環境: 教室、レイアウト、備品、教材
 - 時間的環境: 日課、週日課、行事、授業時間の流れ
 - ワークシステム: 授業以外の活動の流れ、生活の流れ
 - 人的環境: 教師や支援者の質(教え方、指導支援の仕方、教室運営……)
- 授業の内容: 何を教えるのか
 - 授業の方法: どう教えるのか
 - 授業の目標: どのくらいの難易度なのか

これらを「子どもの実態」に合わせることを、特別支援教育は求めている！



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

4

4

問題意識

基本的な考え方

子ども第一主義

学校の制度、やり方に子どもを合わせるのではない
子どもの実態、目標に学校を合わせる(できるだけ)

属人的方法の撤廃

〇〇先生でなければできない方法は採用しない(なるべく)

共通項の発見

個別に合わせるのが大切だが、個別の部分を
極力減らし、共通項を見出し、採用する



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

5

5

環境ガイドライン



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

6

6

環境ガイドライン

環境の4つの要素

- **物理的環境**: 教室レイアウト、空間設定、子どもの席や動線、教師や支援者の動線や立ち位置、掲示物など
- **時間的環境**: 日課、週日課、トランジション
- **ワークシステム**: 課題のやり方、活動の流れ
- **人的環境**: 教師の態度、言葉かけの仕方、指示や説明の仕方、問題があったときの介入の仕方



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

7

7

環境ガイドライン

環境設定の目的

- **居心地**がいい
→ 快適、居場所がある、褒めてもらえる
- **わかりやすい**: 活動が分かる、活動しやすい、活動に迷わない（間違わない、間違いが減る）
→ 成功体験が増える、褒められる、自己肯定感があがる
- 子どものニーズに対応する、**発達段階や特性**に合っている
→ 教育効果が高い

教師にとっても、居心地がよく、仕事がしやすい職場に！



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

8

8

環境ガイドライン

物理的環境設定1

感覚への配慮・支援

□ 感覚的に快適である

- ・ 日当たり、湿度、音、光の環境は適切か？
- ・ 机、椅子がガタガタしていることはないか？

□ 感覚支援がされている

- ・ 聴覚過敏への対応：イヤーマフの準備がされているか？
- ・ 光過敏への対応：遮光カーテン等が準備されているか？
- ・ センソリーグッズが準備されているか？
- ・ 椅子、机のバリエーションがあり、選択ができるか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

9

9

環境ガイドライン

物理的環境設定2

レイアウト

□ エリア設定がされている

- ・ 学習エリア、遊びのエリア、生活エリア、安心エリアなど、2つ以上のエリアが設定されているか？
- ・ それぞれのエリアが、衝立、掲示物、ライン、色などで明確になっているか？

□ 動線が明確である

- ・ 朝の活動、給食、などのときの動線が明確で、わかりやすく示されているか？
- ・ 教室内での生活動線(提出物を出しに行く、教室の外に行く、戻ってくる、カバンの出し入れをする)が明確でわかりやすく示されているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

10

10

環境ガイドライン

物理的環境設定3

整理整頓

□ 備品類、道具類が整理されて収納されている

- ・ 学習で使う備品、道具類、掃除用具等が、整理され、それぞれに写真、絵、文字などでラベリングがされているか？

□ 紙類が使いやすく整理されている

- ・ プリント類が使いやすく整理され、ラベリングがなされているか？
- ・ 提出物(プリント、ノート)を出す場所が明確であり、ラベリングがされ、提出しやすくなっているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

11

11

環境ガイドライン

物理的環境設定4

掲示

□ その日の予定が明確に示されている

- ・ 一人一人の予定、全体の予定が明確に示されているか？
- ・ 今、やるべきことが何で、いつまでなのか、次に何があるのかが、わかりやすく提示されているか？

□ 予定を使用している

- ・ 予定を授業や活動の中で、トランジッションをスムーズに行ったり見通しを持たせたりするために、児童生徒に合わせて適切に使用しているか？

□ 児童生徒にとって必要な情報が、わかりやすく掲示されている

- ・ 週日課(明日のこと)、期待される行動(目標・ルール)、日々の活動で必要なこと(役割、手順など)等が、活動の邪魔にならないが、見やすいところに掲示されているか？
- ・ 活動の時に、それらが十分に利用されているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

12

12

環境ガイドライン

物理的環境設定5

活動での提示

- 活動を始めるとき、終了時刻、それまでの時間、活動の目的、手順等を示している
 - ・ 終了時刻が示されているか？
 - ・ タイマー等により、終わりまでの時間が示されているか？
- 活動を始めるとき、その目的、手順を示している
 - ・ 活動の目的、手順が言葉、写真、図などでわかりやすく提示されているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

13

13

環境ガイドライン

時間的環境設定

ルーティン化

- 日課のルーティン化がされている
 - ・ 帯時間設定など、可能な限り、いつも同じ日課ができているか？
- 授業中のルーティン化がされている
 - ・ 授業の中で、その流れが(一部でも良い)、①復習、②ドリル学習、③話し合いなど、児童生徒に合ったルーティン化がなされ、それが共有されているか？
- 生活の中でルーティン化がされている
 - ・ 登校後の活動、給食準備、給食の片付け、清掃など、毎日ある活動の流れがルーティン化されているか？
 - ・ それらが教師、教室を超えて共有されているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

14

14

環境ガイドライン

時間的環境設定2

トランジション

- 授業や活動の始まり、終わり、切り替え、予定の変更について予告がされている
 - ・ 授業や活動の始まり、終わり、切り替え、予定の変更の5分前、3分前など、児童生徒に合ったところで、児童生徒にあった方法(言葉、サイン、音楽)により、必要に応じて予告しているか？
 - ・ そのとき、次に期待される行動が具体的に示されているか？
- 授業や活動の始まりにトランジションの時間を設定している
 - ・ 授業や活動の始まりに、トランジションの時間(用意ができた児童生徒から始められる活動、参加したくなったりしやすいと思われる活動、定番の活動)を設定しているか？
 - ・ 始まりに遅れたとしても、ストレスなく参加できる状況を作っているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

15

15

環境ガイドライン

時間的環境設定3

活動時間

- 適切な活動時間が設定されている
 - ・ 1つの作業、活動、学習の時間が児童生徒の集中力、持続力に合っているか？(例えば、10分、15分など)
 - ・ 個別、児童生徒の状況によって柔軟に対応しているか？
 - ・ 実態に応じて、休憩(リラックス)や体を動かす活動を取り入れているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

16

16

環境ガイドライン

ワークシステムの設定

目標と手順、援助要請

- 活動を始めるとき、その目標と手順をわかりやすく伝えている
 - ・ 活動を行う前に、目標と手順を明確かつわかりやすく指示しているか？
 - ・ その目標と手順は、児童生徒の実態に合っているか？
- 活動の前に、活動の途中で困ったとき、どうすれば良いのか、援助要請の方法を伝え、実際に援助要請があったときにそれに対応する
 - ・ 活動を行う前に、困ったときにどうすればいいか、援助要請の方法が明確に示されているか？
 - ・ 児童生徒が援助要請をしたとき、児童生徒の期待通りに教師が援助をしているか？
 - ・ その結果、児童生徒の失敗が回避されたり、新たな学びを提供したりできているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

17

17

環境ガイドライン

人的環境1

基本的態度

- 児童生徒に対して肯定的な態度を取っている
 - ・ 児童生徒に対し、普段から笑顔、目線を合わせる、頷きながら話を聞く、機嫌良く接することができるか？
- 児童生徒の取るべき「適切な行動」を具体的に示している
 - ・ 支援において、普段から、児童生徒が取るべき「適切な行動(目標)」を言葉や行動で示しているか？
- 児童生徒の「適切な行動」を常に確認、評価している
 - ・ 児童生徒の「適切な行動」を、それが当たり前のこと、よくあること、誰にでもできることであっても、常に認め、評価しているか？
 - ・ その評価を児童生徒にはっきりと伝えているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

18

18

環境ガイドライン

人的環境2

□ 教師にふさわしい人権意識を持っている

- ・ 人権侵害が起こらないように、互いに注意し合っているか？
- ・ 児童生徒に対し、通常、大人に対して使わないような言葉、口調で話したり扱ったりすることがなく、児童生徒のモデルになるような言葉、口調、対応ができていますか？

□ 教師として、向上心を持ち、前向きに努力している

- ・ 現状のやり方に固執することなく、本評価を含む外部からのアドバイスを前向きに取り入れているか？
- ・ より良い支援指導を実現するために、研修に熱心に取り組み、教師集団の中でより良い方法を検討しているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

19

19

環境ガイドライン

人的環境3

働きかけ

□ 児童生徒に適切な言葉、語彙を使っている

- ・ 児童生徒に合わせて語彙を選択しているか？
- ・ 児童生徒の語彙が増えるように言い換え、プラスワールールに従って話しているか？

□ 児童生徒に合った声の大きさ、調子、スピードで話している

- ・ そのときの状況、児童生徒の状態に合わせた声の大きさを話しているか？
- ・ そのときの状況、児童生徒の状態に合わせた声の調子（基本は落ち着いた声、明るい表情）で話しているか？
- ・ そのときの状況、児童生徒の状態に合わせたスピード（遅すぎず、早すぎず）で話しているか？

□ 児童生徒に働きかける前に、注意を引いたり目線を合わせたりしている

- ・ 児童生徒に働きかける前に、必ず児童生徒の注意を引いたり目線を合わせたりしているか？
- ・ そのことにより、児童生徒が「働きかけに対応できる状況」になっているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

20

20

環境ガイドライン

人的環境4

問題行動への対応

- 児童生徒の急激な感情や行動の変化、逸脱行動に対して、適切に対応している
 - ・ 児童生徒の急激な感情や行動の変化、逸脱行動に対して、声を荒げたり叱ったりしていないか？
 - ・ 児童生徒の急激な感情や行動の変化、逸脱行動に対して、ステップを踏んで冷静に対応しているか？
 - ・ 児童生徒の急激な感情や行動の変化、逸脱行動について、客観的記録(ABC分析など)をとり、関係者と共有しているか？



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

21

21

環境ガイドライン

環境設定ガイドラインを受けて

- これらを具体化する
- そのとき、今、目の前にいる子どもの実態、これまでの経緯などに合わせて実現することが望ましい
- 環境の変化は、確実に子どもたちの行動に影響を与える
- そして行動の変化は、学習そのものになる



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

22

22

まとめ

まとめ

- 環境設定、正しい支援指導の方法には、
子どもの発達を支え、リスクを下げる可能性がある。
- 環境設定は、**支援の一部**であり、エビデンスありとされるプログラムには、
必ず環境設定について言及されている。
(環境設定に関する研究は、かなり進んでいる)
- ただしい支援方法は、**じわじわと効果**を上げ、
定着しやすいことが分かっている。
- **まず、1つの重要な「良いモデル」を作らなければなりません。子どもたちの
発達と将来の幸せ、私たち社会の未来のために、一緒に頑張りましょう！**



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します

23

23

24